

interview 新しい自分

学習・進学指導部部长 三河 一雄



— 保善高校にお勤めになって何年になりますか。

今年で 37 年目になります。保善高校一筋です！

— 長年進路指導に携わっておられますが…

そうでもないですよ～。最初の頃は図書館だったり生徒会だったり、進路指導部以外のところにもいたことはあるんですよ。でもその後はずっと進路指導部にいますから、かれこれ 34 年になりますね。あらためて思い返すと、随分長いこと進路指導部にいるんだなあと思います(笑)。

— 本校は、「新しい自分、自分がなりたい自分」をキーワードにしていますが、先生が印象に残っている生徒を教えてください。

そうですねえ、随分と多くの生徒と関わってきましたから、印象に残る生徒を挙げろと言われてもたくさん浮かびすぎて困ってしまいますが… 強いて挙げるとすれば、海洋関係に興味を持った生徒でしょうか。その生徒はラグビー部に所属していて、毎日激しいトレ

ーニングを積んでいたわけなんですけど、リーダーシップもあったのでクラスの委員長を任せていました。毎日の生活の中で少しずつ自分のやりたいこと、興味のあることを考えていくうちに、自分は海洋関係に進みたいと思うようになったんですね。もちろん最初から学力が充実していたわけではありません。むしろ私からみて、海洋関係に進むためにはかなり厳しい道を通らなければいけないと思っていたんですね。でもその生徒は部活動をやりながら地道に勉強を進めて行って、最終的には自分の希望を叶えるに至ったんです。本当にすごいことでしたよ！

— そういう生徒は他にもいたと思いますが、「新しい自分」を見つける生徒に共通して言えることとはなんでしょうか。

月並みなことかもしれませんが、きちんと自分を持っている生徒、夢を持っていて、最後まで諦めないところが共通しているような気がしますね。結局他力本願を決め込んでいる

生徒は、自分の人生を歩んでいないのと同じわけですから、そういう生徒よりは今言ったタイプの生徒たちの方が「新しい自分」を見つけやすいでしょうね。

— 話は変わりますが、三河先生はこれまでどのような生徒を育てたいと思ってきましたか。

これも月並みで漠然としているかもしれませんが、「人として他人から後ろ指をさされない生徒」というのがいつも頭にありましたね。もちろん学力もあるんですが、ここは学校です。学校というのは学力はもちろんのことですが、人間形成に関わるわけですので、学力以前のものとしてそういうことはいつも頭にありましたね。

— 先生は数学担当ですが、そのお考えは教科指導にも影響していますか。

もちろんです。数学を教える時というのは、とことん生徒に「学問的に」つきあってあげるようにしています。

— 「学問的に」とはどういうことでしょうか。

要するに、教えながら（生徒から）教わるという姿勢を私自身が持つことによって、それが生徒に伝わればいいのではないかと思うので

す。大人が真剣に生徒に付き合っていれば、生徒はそれに応えてくれるものじゃないでしょうか。それがやがては人としてこうありたいという自分が考える「理想の大人像」というものにつながっていくと思うんです。そうなれば、人に後ろ指なんてさされるわけがないでしょう。

—なるほど。今「教えながら教わる」とおっしゃいましたが、そのあたりをもう少し詳しく伺いたいです。

例えばですね、教師というのは一方通行的にものを教えていると思われがちですが、実はそうでもないんですよ。もちろん私だって若い頃は未熟でしたからそうした授業をやってしまったこともあったかもしれませんが、自分の中ではこれが一番解きやすいんだと思って生徒に伝えるだけの授業をしていたかもしれません。でもそうとは限らないんですよ。一例を挙げると、私は20代でクラリネットを習い始めたんですが、先生の教え方が間違っているわけではないんですが、どうしても「わから



ない」となってしまうことがあったんです。先生が教えるやり方を教わる側が「分からない」と思ってしまくと、これは相当苦痛なんですね。それから自分の教え方をよく見直すようになりました。「分からない」と思っている生徒の思考にとことんつきあえば、その生徒の考え方がわかってくる。そうするとそこに光が見えてきて、ちょっとだけ後押ししてやれば一気に理解につながるわけです。もちろん時間に限りはあるわけなんですけど、放課後に来てくれた生徒には時間の許す限りいくらでもつきあいます。それによって同じように「分からない」と感じている生徒に対しての教え方の勉強になって、自分にとってプラスになるんです。それが「教えながら教わる」ということです。

—そうですか。私からすれば「数学が好きだから」数学の教師になられたのかとばかり思っていましたか。

数学は好きですよ。私は英語が苦手でしたし、今思うのは、あの当時もっと英語を勉強していれば全然違う人生になっていたかもしれないと思うことはよくあります。ですが、私の場合は数学が苦手な英語をカバーしてくれていたんですね。数学というのは端的に言って「考えれば解ける」ものです。例えば英語だと、英

語が苦手な私からすれば知らない単語が出てきた時点でそれは何時間考えてもわからないわけです。しかし数学だと何時間でも考えれば、いつかは光が見えてくるのですよ。だから数学が好きなんですよ。その考えに考え抜いた先にある光というものは、私にとってはカタルシスのようなものなんです。もちろんそれを生徒にも体験してほしいという思いは強く持っていますよ。

—では最後に、長年保善高校に勤めてきた立場から、保善高校の良さを教えていただけますでしょうか。

きちんと生徒に寄り添って、お互い成長していける環境がある学校だと思っています。もちろんその「お互い」というのは、生徒同士のことだけでなく、生徒と教師の間でも言えることです。他校とは比べられませんが、ある意味教師も自由にやりたいことができるという部分もあるので、これまで自分のスタイルを追求できてきたのはこの環境だったからだと思います。

—ありがとうございました。